

関係各位

高知県病虫害防除所長

令和 5 年度病虫害発生予察技術情報(第 8 号)

春に向けた冬期のスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策について

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)による水稻の食害は、移植直後から移植 3～4 週間後に被害が大きく、毎年欠株が目立つほ場が見られ、問題となっています。令和 5 年度の発生面積は作型や地域によって異なりますが、早期稲では県東部で、普通期稲では東部と中西部で平年よりも多くなっています(表 1)。また、12 月 19 日に気象庁から発表された 3 か月予報によると、平均気温は平年よりも高く(表 2)、今冬はエルニーニョ現象による暖冬と予想されています。このため越冬個体が例年よりも多いと予想され、今春の移植期以降の被害が増加する恐れがあります。

つきましては、前作でスクミリンゴガイの発生量が多かったほ場等、被害を受ける恐れがある場合には、下記の対策を実施して被害防止に努めてください。

記

- 1 スクミリンゴガイは水田や水路で土中に潜って越冬します。厳寒期に水田をロータリー耕うんすることによって貝を物理的に破壊するとともに、より低温にさらすことができ、密度を下げることができます。土壌水分が少なく田面が硬いときに耕うんし、走行速度を遅く、ロータリーの回転速度を速くすると、高い効果が得られます。耕うんの深さは、5cm 程度に浅くすると効果が高まります。
- 2 厳寒期に水路内に堆積した泥を地表面に上げ、寒風にさらすことで越冬量を減らすことができます。同時に雑草が取り除かれると、活動期の餌をなくすことにもなります。
- 3 春期(田植え前)から取水口・排水口に 5mm 目合い程度のネットや金網を設置することで、水路で越冬した個体(特に 1.5cm 以上の大型の貝)の本田への侵入を防止することができます。
- 4 スクミリンゴガイは水中でないと摂食できず、水深が浅いと活動が制限されます。そのため、凸凹があるほ場では、水深が深いところで貝が活動しやすく、そこで集中的に食害が生じます。ほ場の凸凹をなくして、できるだけ均平にしましょう。
- 5 スクミリンゴガイの防除対策マニュアル(移植水稻) (https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/PDF/sukumi_manual.pdf)が農林水産省から公開されていますので、参考にして下さい。

表1 令和5年度の水稲におけるスクミリンゴガイの最高発生面積(単位 ha)

地域	早期稲				普通期稲			
	栽培面積	発生面積	平年値	平年比	栽培面積	発生面積	平年値	平年比
東部	641	373.9	173.1	216	372	217.0	151.0	144
中央部	3,417	1,793.9	1,617.8	119	1,226	204.3	147.4	139
中西部	663	284.2	283.3	100	2,277	455.4	243.1	187
西部	1,289	254.1	326.2	78	875	87.5	336.9	26
合計	6,010	2,492.4	2,281.9	109	4,750	777.6	766.1	102

地域によって発生面積が最高となった時期が異なるため、合計は一致しません。

表2 平均気温の3か月予報(令和5年12月19日気象庁発表)

月	対象地域	低い	平年並	高い
1月	四国地方	20	30	50
2月		20	30	50
3月		20	30	50

お問合せは、病害虫防除所(TEL:088-863-1132)または環境農業推進課(TEL:088-821-4861)まで